

2019年(令和元年)10月4日(金曜日)

**心** 見返りを求めずに「補う」

まだ子供が幼くて手がかかる  
るとき、夫は妻のために、また、  
妻は夫のために、何をすることが  
できるでしょうか。

「相手を補う」という考え方は、  
夫婦間の問題にとどまらず、  
人間関係の基本的なあり方にも  
つながっていくものです。

どのような人でも、長所と短  
所があります。人間は、お互いに  
何かと足りない点があるのが  
普通です。相手の足りない点を  
補おうとする心は、この世界

道徳で人と社会を幸せに

同時に生きている人間同士として、とても大切な心づかい  
です。

注意したい点は、相手を補う際  
の心の持ち方です。夫婦は身近な  
存在だからこそ求め合う気持ちは  
強くなっていくものですが、  
相手に見返りを求めないで自分が  
進んで行おうとするところに、  
心づかいのヒントがあるのです。

「道徳」教科化—ヒントの泉

「ニューモラルの心を育てる言葉」366日

掲載日から2日間限定で10名様に**プレゼント!**  
道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号  
住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。  
公益財団法人モラロジー研究所 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1  
E-mail:book@moralogy.jp TEL:04-7173-3155

2019年(令和元年)10月11日(金曜日)

**心** 「違い」を理解する

「異文化」を理解することは、  
人と人が理解を深めること  
の象徴といえます。

相手のことを知るためには、  
まずは自分自身の育ってきた環  
境や背景、ひいては日本の国に  
思いをめぐらし、その上にある  
自分の考えや価値観について、  
見つめ直す必要があります。そ  
の土台があれば、たとえお互い  
の考えが食い違ったり、行き違  
いになったりしても、どこが違  
うのかをじっくり考えて話し

道徳で人と社会を幸せに

合い、その違いを埋めていくこ  
とができるでしょう。

そして、自分の気持ちと相手  
の気持ちのどこに違いがある  
のかを探っていくうちに、お互  
いの心の中には深い信頼感と  
絆(きずな)が生まれ、やがて、お  
互いの理解へとつながっていく  
のではないのでしょうか。

自分と違う相手を理解する  
ことは、自分自身を知ること  
でもあるのです。

「道徳」教科化—ヒントの泉

「ニューモラルの心を育てる言葉」366日

掲載日から2日間限定で10名様に**プレゼント!**  
道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号  
住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。  
公益財団法人モラロジー研究所 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1  
E-mail:book@moralogy.jp TEL:04-7173-3155

2019年(令和元年)10月25日(金曜日)

**心** 家庭は小さくても重要な「社会」

たとえ学校の成績がよくな  
かったとしても、あるいはスポ  
ーツや芸術分野などに優れて  
いなかったとしても、その家庭  
に育つ子供は、親や家族にとっ  
て「かけがえのない存在」でし  
ょう。

また、子供にとっても家庭は  
安息の場であると同時に、人と  
して教育される場でもありま  
す。さらに、家庭は子供が学校  
や社会に出ていくための準備  
をするところです。子供はここ

道徳で人と社会を幸せに

で、きょうだいや親、祖父母と  
の関わりを通じて、人間関係の  
基礎を築いていきます。つまり、  
家庭とは最も規模の小さな「社  
会」であり、子供が基本的生活  
習慣を身につけ、人間形成を行  
っていく重要な場であるので  
す。

まさに「道徳は家庭から」「家  
庭は道徳の基(もと)」というべ  
きでしょう。

「道徳」教科化—ヒントの泉

「ニューモラルの心を育てる言葉」366日

掲載日から2日間限定で10名様に**プレゼント!**  
道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号  
住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。  
公益財団法人モラロジー研究所 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1  
E-mail:book@moralogy.jp TEL:04-7173-3155

2019年(令和元年)11月1日(金曜日)

2019年(令和元年)11月8日(金曜日)

2019年(令和元年)11月15日(金曜日)

**心** 人間関係を豊かにする言葉

あるとき、電車の中を走り回って騒ぐ男の子に「ちよっと静かにしようね。ほかのお客様に迷惑がかかるから」と注意をしたOさん。すると男の子に付き添っていた若い母親は、自分が恥をかかされたと思っただのか、Oさんをにらむようにして「近寄っちゃだめよ」と言つと、子供の手を引いて自分の席に連れ戻したのです。

例えばこのとき、母親がひとりごと「めんなさー」「すみません」「ありがと」と言つていれば、どうなっていたでしょうか。私たちの

**心** 親は「跳び箱の台」

子供の思春期は親の試練の時ですが、それ以上に苦しみ悩むのは子供自身です。

たとえ外見が変わったとしても、その子の持っている優しさや思いやりがなくなつたわけではありません。子供は子供なりに、よりよく変わろうとして模索しているのではないのでしょうか。自分はどういう人間なのか、自分は何をしたいのか、人間はなんのために生きていくのかという、根源的な問いかけをしているのです。まさに「自我」の確立に向けて、「子

**心** 「おかげさまで」は、なんのおかげ？

私たち一人ひとりが今日存在するということは、動物や植物の生命を摂取するという行為に支えられています。さらにそれらの動植物も、自然界に存在する空気や水によって養われたものです。その意味で、私たちのいのちは、自然の恵みに生かされているといえるでしょう。もちろん、社会とか国とか、周りの人々の力添えもあります。

最も身近なものは、私たちに直接いのちを授けてくれた父母の存在です。また、それより

道徳で人と社会を幸せに

**「道徳」教科化—ヒントの泉**

「ニューモラルの心を育てる言葉366日」

日常には、そのひと言が足りないばかりに、人との関係や場の雰囲気、気を気まずくしていることが、数多くあります。

「ありがと(サンキュー)」「どうぞ(プリーズ)」「すみません(エクスキューズミー)」といった言葉は挨拶の基本であり、お互いの心はこうしたひと言で開かれています。ここから、私たちの人間関係はより豊かになっていくのです。

道徳で人と社会を幸せに

**「道徳」教科化—ヒントの泉**

「ニューモラルの心を育てる言葉366日」

供」という殻(か)を破ろうとしている、ともいえるでしょう。

この時期、親の役割は跳び箱の台のようなものです。思春期という助走期にエネルギーを蓄えた子供が、殻を破って大きくジャンプできるように、どっしりとした存在でありたいものです。夫婦がよく話し合い、支え合いながら、子供を信じ、温かく長い目で見守る気持ちを培(つち)かかっていきましよう。

道徳で人と社会を幸せに

**「道徳」教科化—ヒントの泉**

「ニューモラルの心を育てる言葉366日」

ずっと昔からののちをつないできてくれた、先祖の存在もあります。

私たちの先人は、こうした自分の周りのいろいろな恩恵をまとめて「おかげさまで」でありがたい」と言ってきたのです。

私たちが今、さまざまな場面で「おかげさまで」という言葉を口にするのも、そうした「目に見えない恩恵に対する感謝の気持ち」と考えてよいでしょう。

掲載日から2日間限定で10名様に**プレゼント!**

道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号

住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。

公益財団法人モラルロジー研究所 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1

E-mail:book@morology.jp TEL:04-7173-3155

掲載日から2日間限定で10名様に**プレゼント!**

道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号

住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。

公益財団法人モラルロジー研究所 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1

E-mail:book@morology.jp TEL:04-7173-3155

掲載日から2日間限定で10名様に**プレゼント!**

道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号

住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。

公益財団法人モラルロジー研究所 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1

E-mail:book@morology.jp TEL:04-7173-3155

2019年(令和元年)11月22日(金曜日)

心 苦手な人ほど「恩人」

高校教師のMさんが若いころのこと。クラスにS君という、いつも問題を起こす生徒がいました。Mさんはなんとかよい方向へ導きたいと思って心を配るのですが、反発を受け、悩みの種になっていました。あるとき先輩教師に相談すると、こんな答えが返ってきたといいます。「S君がいるからこそ、立派な青年に育ってほしい」という、君の生徒に対する愛情が引き出されている。むしろ言えば、その愛情が届かないということは、まだまだ

道徳で人と社会を幸せに

だ君の愛情が足りないことや教師として未熟な点があることを、S君が身をもって教えてくれていると考えられないか。S君は君の恩人だよ。だから決して逃げてはいけない。真正面から向き合っていくんだぞ」と。人に苦手意識を持つてしまったとき、これも自分が成長するうえで大切な出会いだ」と思い直すと、そこから新しい関係が開けてくるかもしれません。

「ニューモラルの心を育てる言葉366日」

「道徳」教科化—ヒントの泉

掲載日から2日間限定で10名様に**プレゼント!**

道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号

住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。

公益財団法人モラロジー研究所 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1

E-mail:book@moralogy.jp TEL:04-7173-3155

2019年(令和元年)11月29日(金曜日)

心 心の眼を周囲に向ける

幕末の福井藩士、橋本左内はしもと さない・一八三四〜一八五九は、十五、六歳のころに著した『啓発録』の中で、立派な武士となっていくためには「稚心(ちしん)を去る」ということが大切であると述べています。自分のことばかり考える「子供の心」を去り、他に喜びを与える心を持つこと。それは大人の世界への第一歩ではないでしょうか。家庭や学校、職場の中で、周りの人に喜びを与えることは、私たちの心の持ち方次第で、い

道徳で人と社会を幸せに

つでも、どこでも、誰にでもできます。幼い子であっても、感謝の言葉をかけること、お手伝いをするなど、他に喜びを与えることができるでしょう。

ほんの些細(ささい)なことでも「自分に何かできることはなにか」と考えて、心の眼を周囲に向けてみてはいかがでしょうか。他に喜びを与える生き方は、きつと自分自身の人生を豊かにしてくれることでしょう。

「ニューモラルの心を育てる言葉366日」

「道徳」教科化—ヒントの泉

掲載日から2日間限定で10名様に**プレゼント!**

道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号

住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。

公益財団法人モラロジー研究所 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1

E-mail:book@moralogy.jp TEL:04-7173-3155